

募 集 要 項

氏 名：宮永 健太郎	研究室：第 4 研究室棟 207 号室
専 攻 分 野：ソーシャル・ガバナンス論	
演習テーマ：持続可能な発展とソーシャル・ガバナンス	E-mail：miyanaga@cc.kyoto-su.ac.jp

演習内容・主なテキスト

環境問題や社会問題が各地で深刻化する中、**SDGs（持続可能な開発目標）**への関心が高まっています。プラスチックごみや二酸化炭素を大量に排出したり、従業員にサービス残業を平然と押し付けたりするような企業は、市場からも人々からも見放され、この先存続できなくなることでしょう。環境問題や社会問題を引き起こさずに企業をどう存続させ、利益を生み出すのか？——企業のマネジメントにたずさわる人々は今、皆この問いに直面しています。



また企業以外の組織に目を向けると、例えば政府による環境問題・社会問題への取り組みにも変化が起きつつありますし、NPO・NGO のような組織の活動にも注目が集まっています。こうした状況で登場したのが、「社会思考のマネジメント」とか「ソーシャル・ガバナンス」とか呼ばれている考え方です。

宮永ゼミのテーマは「**持続可能な発展とソーシャル・ガバナンス**」です。そして宮永ゼミは、**環境問題**や**社会問題**の解決に関心がある学生を歓迎します。SDGs のベースになっている「持続可能な発展（Sustainable Development）」とは、いったいどんな概念なのか？ 企業、政府、NPO・NGO がどのように行動し、連携すれば、持続可能な発展が実現できるのか？ SDGs の取り組みを真に意味あるものにするには、何が必要なのか？ そもそも SDGs だけで持続可能な発展が実現できるのか？……こうした問題を、みんなで考えていきましょう。



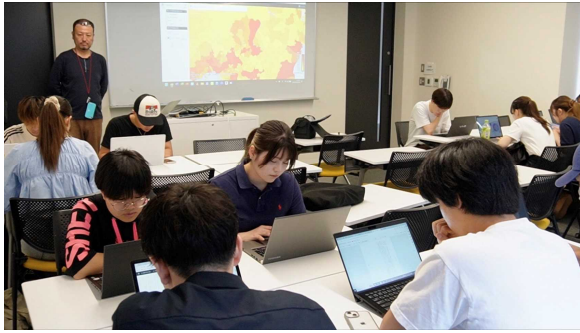
「徒弟制」でも「自由放任制」でもない「**共育制**」（教える側と教えられる側が共に学び共に育つ）が、宮永ゼミの基本コンセプトです。そして、不透明でタフなこれからの時代を生き抜くのに必要な「**個の力**」（自分の心で感じ、自分の頭で考え、自分の術（わざ・すべて）で答えを出し、自分の言葉で他者

に説明する力）を鍛えるというのが、宮永ゼミの基本ポリシーです。

＜演習1＞・＜演習2＞

「社会なくして個人なし」。個の力を伸ばすといっても、周囲とのコミュニケーションや世の中との関わり方の質が高まらない限り、個の成長は望めません。一人でひたすら筋トレやリフティングばかりしていても、いいサッカー選手になれないのと同じです。

そこでまずみなさんには、**グループワーク型タスクを通じて、読む力・書く力・話す力・**



聴く力を高めてもらいます。具体的には、コミュニケーション能力やディスカッション能力の向上を目的としたグループワークを実施するほか、環境問題や社会問題に関するデータ分析・加工の基礎的なトレーニング（Excel, RESAS）も行うなど、データ思考を磨く機会も設けます（左写真）。

加えて、ゼミ4回生の先輩から就活の体験談を聞く**就活交流会**、ゼミでの学習や卒業後の進路について教員と一対一で意見交換する**個人面談**も実施し、ゼミでの学びが今後の人生にどう繋がるのかを体感してもらいます。

＜演習3＞・＜演習4＞

「成長できる人間とは、良い問いを立てられる人間である」。周囲の状況や世の中の問題を“自分の課題”にうまく落とし込めれば、自らが考えるべきこと／なすべきことが明確になり、成長に向けた道筋も自ずと浮かび上がってきます。

と同時に、それは実りある人生にもつながります。自分の課題や成長後の自分像というのは、人それぞれまったく異なります。その事実から目を背け、同じ目標を一律に外から与える組織（社会）では、人々は自分で考える力を奪われ、違和感とともに鬱々とした日々を過ごすこととなります。そして将来、全く同じ状態を今度は他者に押し付ける側に回ることでしょう。展望なき“御恩と奉公”の悲しい無限ループ。場の空気を読んでうまく立ち回ったり、既存のムラ秩序に溶け込んだりすることばかりが重宝され、それが“コミュニケーション”と呼ばれてしまう悲しい組織（社会）……

そこでみなさんには、「自分（たち）で問いを立て、その問いに答えを出す」学びを実践してもらいます。具体的には、**ゼミ生をいくつかのチームに分け、チームごとに自分たちでテーマを決めて研究し、他大学（福岡女子大学など）とのインゼミ（合同ゼミ）で報告してもらいます**（右写真・QRコード参照）。

ちなみに2023年度は、「水ビジネス」「自動運転技術」「サステナブルファッション」「サテライトオフィス」「未利用魚」の計5チームが報告しました。そして2024年度は、「シェアオフィス」「農泊」「バイオマス」「MaaS（Mobility as a Service）」の計4チームが活動しています。

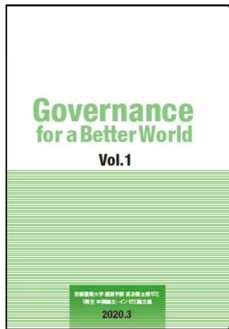
といっても、自分にそんな学びができるのか、不安な学生も多いことでしょう。しかしここで、ゼミの基本コンセプト「共育制」の出番です。私は、時に寄り添いながら、そして時に遠くから見守りながら、そのプロセスをサポートします。「講義ではティーチング（teaching）」「ゼミではコーチング（coaching）」というのが、私の教育スタイルになります。正しい努力を正しいプロセスで積み重ねていけば、人はみな必ず成長できます。学びはスポーツや文化系活動と非常に似ているのです。



＜演習5・6＞

「私はまだ学んでいる（Ancora imparo）」。あらゆるものが急速に変化する今の時代、人は常に学び続けなければなりません。その方法をじっくり習得する機会を得られるのは、大学生に与えられた貴重な特権です。

こういう有名な格言があります——飢えている人にとって本当に必要なのは、魚を与えることではなく、魚の釣り方を教わることである——。与えられた魚は食べると無くなってしましますが、魚の釣り方を知っていれば一生食べていけるからです。一人一人が「学び方を学ぶ」ための千載一遇のチャンス、それが卒業論文の執筆なのです。



宮永ゼミの最終目標はただ一つ。「ゼミ生全員が卒業論文を書くこと」です。＜演習 1＞～＜演習 4＞は、その全てが卒業論文に向けた準備なのだと考えてください。もし就職活動で「大学で何を学んでいますか？」と聞かれたら、そして社会に出たあと「大学で何を学びましたか？」と聞かれたら、澁（よど）み無くこう答えましょう。「ゼミで〇〇について卒業論文を書きます／書きました」。それはあなただけの、オンリーワンの答えになるはずです。

なお宮永ゼミでは、卒業論文集（『Governance for a Better World』）を毎年制作し、ゼミの卒業生全員に 1 冊ずつ手渡しています（左写真）。

同論文集は、大学図書館 2 階の教員文庫コーナーにも置いてありますので、興味ある人は一度手にとってご覧ください。

教員からの要望

1. 環境問題や社会問題への関心がゼミ応募の前提条件となりますが、それ以上に重要なのは、ゼミ活動に対する**「自発性」と「モチベーション」**です。教員に言われるがまま、与えられるタスクさえこなしていれば、就活でアピールする勉強面の“ガクチカ”（学生時代に力を入れたこと）はひとまず手に入るだろう——そんな了見の学生にとって、宮永ゼミはたぶん楽しくないゼミなので、ぜったい入らない方がいいです。そしてそんな人には、ゼミなどに入らず、インターンやアルバイト、部活をひたすらやり倒すタイプのガクチカ追求をお勧めいたします。宮永ゼミがゼミ生に与えるのは、ガクチカそのものではなく、ガクチカを得るための「自由な学びの場」、そしてその場を使いこなす「術（わざ・すべ）の習得の機会」に過ぎないからです（「個の力」を鍛える！）。そして、

宮永ゼミで得られるガクチカとは、「ゼミにしっかり向き合い、仲間や教員と積極的に交流するうちに、気づいたら自然と手に入っていた」というようなタイプのものです。そういうゼミ生活を思い描いている学生を、宮永ゼミは歓迎します。

2. 逆に、やりたいこと・学びたいことがすでに明確で、自らのイニシアティブで発動できるタイプの学生にとっては、宮永ゼミはとても居心地がいいはず。そして教員は、**「そんな学生を積極的にサポートし、ゼミ生が抱えている夢をカタチにするためのお手伝いをします。」**例えば数年前、宮永ゼミの有志メンバー数名が「=Scafe（エスカフェ）」という**ゼミスピンオフ企画**を実施しました（右写真・QRコード）。二酸化炭素を出さないカーボンニュートラルコーヒーを提供するカフェを学内で出店し、京産大生の環境意識を高めてもらうという趣旨の企画だったのですが、おかげさまで各方面からご好評をいただいたようです。「やる気スイッチはもう入っている」「でもそのやる気エネルギーをどこにどう向けたらいいのか分からない」という学生を、宮永ゼミは歓迎します。



3. つまり、**「負荷がかかるのを嫌がり、成長するチャンスから逃げ回るタイプの人は、宮永ゼミ向きではありません。」**例えば「目先の損得勘定でしか動かない」「様子見癖が直らず主体性がない」「人見知りや“コミュ障”といった言い訳にすぐ逃げ込む」等々。そんな人は、セレンディピティ（予期せぬ幸運を掴み取る力）も遠ざかるばかりです。

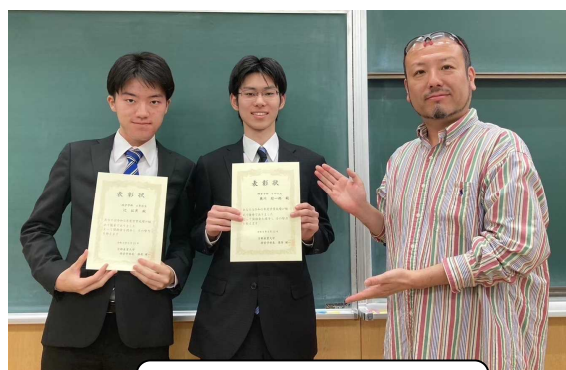
4. **「ノートパソコンを必携とします。」**これからみなさんが生きていく第四次産業革命の時代、パソコンがある程度使いこなせるのは当然のことと見なされます。ゼミ活動を通じてその力を高めましょう。

5. **「ゼミの無断遅刻・無断欠席は厳禁」**であり、違反したゼミ生は、残念ながらその時点で落単（ゼミリタイア）となります。ご注意ください。

宮永ゼミを希望する学生は、WEB 申込様式の 1. ～ 6. の質問項目の他に、**下記「宮永ゼミ独自質問項目」(①～③) への回答を、それぞれ 150 字程度で、「その他」の欄に記入してください。**本ゼミに対する応募者の適性を判断する材料にします。

「宮永ゼミ独自質問項目」

- ① この募集要項を読んで、一番印象に残ったことと、その理由
- ② マネジメント・リテラシーⅠ（春学期）で学んだ諸内容のうち、一番興味を持ったテーマと、その理由
- ③ みなさんの今までの人生の中で、一番思い出深い出来事（経験）と、その理由



教員の自己紹介



趣味は音楽です！
@X (Twitter)



Check it out!!



ゼミ生からの紹介

□ 真弓（8期生ゼミ長）



宮永ゼミはグループワークと発表を中心に授業を進めていくので、ゼミの仲間とコミュニケーションが取りやすく、親しみやすい雰囲気 of ゼミです。

毎回の授業を通し、自分の考えや知識を伸ばしていき、周り高め合えることも1つの魅力だと思っています。

BBQや食事会、合宿など学外でのイベントも充実しています。ゼミ生同士の交流が活発で沢山の思い出を作ることができます！

宮永ゼミに興味がある皆さん、是非お待ちしております！一緒に楽しみま

しょう～！

□ 横尾（7期生ゼミ長）



1回生のみなさん宮永ゼミに入りませんか？

私たち3回生は現在、福岡女子大学とのゼミ交流・発表に向け、日々プレゼン作成を行っています。答えのないことを突き詰める作業でもあるので、時には行き詰まりそうなときもありますが、徐々に完成していくことに、達成感や喜びを感じられるのも、ゼミの醍醐味だと思います。

宮永ゼミでは授業以外のアクティビティも充実しています。BBQ、新年会、忘年会などなど。みなさん自身が企画するのももちろんOK！先生はどんな提案にも乗ってくれますよ！皆さんの応募をお待ちしています。

□ 沈（6期生ゼミ長）



現在、宮永ゼミ4回生は卒業論文の執筆に取り掛かっています。自身の興味のある分野を研究できるので、楽しく取り組む事が出来ると思います！また宮永先生は、どのような事にも親身にサポートしてくれ、学業面はもちろんの事、私生活の悩みや相談なども受けてくれます！BBQや合宿など、ゼミ全体でのイベントもたくさんあるので、ゼミを勉強するだけの場所ではなく、様々な人と交流できる良い場になると思います！私は宮永ゼミで過ごした3年で、本当に沢山の知識や能力、思い出を作れたと思

います。みなさん、宮永ゼミへどうぞ！！